

5月13日(土)、授業参観・学級懇談会とPTA総会が行われました。コロナ禍にあって2年間行えなかったため、3年ぶりということになります。そのためなのでしょうが、例年がない保護者の来校となりました。中学校と高校を比較すると、中学校の方が多のですが、高校3年生のあるクラスは7~8割ほどの保護者が来られていました。我が子の進路について、前向きに考えていきたいという想いの表れなのだと思います。

PTA総会では、藤堂PTA会長から「3年ぶりの開催となりましたが、自身初めての総会です」と話したのち、「コロナ禍が収束を見ない中、学校や子どもたちとの新たななかかわり方の工夫を」ということにも触れられていました。(写真は、高校1年生の授業参観の様子。)



## お天道様は見ていましたよ。

5月11日(水)、久しぶりに「修大協創中高前」から広電電車に乗って広島市内で行われた会議に出席しました。学校を出発したのはお昼頃だったので、「紙屋町」まで座席に座っていくことができました。お陰でゆっくりと本を読むこともできました。

さて、帰りのことです。時間はとうに17時を回っていたので混み合うことを想像していましたが、案の定、ほぼ満員の状態でした。優先席シートがある車両に乗り合わせたのですが、その斜め向かいには初めて見る腰掛タイプの優先席がありました。そこには“ベビーカー”のピクトグラムも掲げてあり、まさに多目的優先席なのだと実感しましたが、腰掛けている人は40代ぐらいの男性と20代の女性2人の、3人でした。

電車は「土橋」を過ぎて、ますます混み合ってきました。「西観音町」でベビーカーを携えた若いお母さんが乗車することになりました。このあたりから、ベビーカーとこのお母さんが下車するまでの間、車内の様子から目が離せなくなり、乗客の咄嗟の対応はその人それぞれの人間性が出ているなあと感じ、納得するばかり。そんなことを綴ってみました。

まず、電車が止って扉が開くと、車掌さんが下りて行ってベビーカーを持ち上げ、お母さんの乗車を介助しました。そして、「乗客のみなさま、申し訳ございません。優先席(腰掛)まで通していただけますでしょうか」と告げると、みなさんがそこまでの通路を確保しました。とくに、床に大きなリュックをどっかと置いて、吊革に右手でつかまり、左手に参考書(古文単語)を持って勉強していた2人の男子高校生(間違いなく城北高校)が即座に動きました。リュックを抱え「空

けようや」と言ってさらに通路が確保され、ベビーカーは腰掛優先席に辿り着きました。それを見届けた車掌さんが「発車します」(少し感謝めいた声で?)。勿論、腰掛けていた“3人”はサッと立ち上がって席を譲りました。

電車は「己斐」を通過。さらに混み合ってきましたが、事情を知っている乗客はそんなことを気にせず、和やかな空気を受け止めているように思えました。男子高校生は何事もなかったようにリュックを前抱えのまま黙して古文単語の暗記に専念していました。ベビーカーの側には女子中学生(間違いなくND清心中学校)と初老の女性。少しして、ベビーカーの乳児がぐずり始めました。さあ泣き出したら大変です。乗客は当然不快な気分を味わうことになりますが、気の毒なのはお母さん。やり場のない気まずさを抱えます。すると、女子中学生が絶妙なタイミングその子をあやしたのです(「いないいないばあ」と言ったか?)。中学生がそうする光景にはなかなか出会えません。そして、初老の女性も同じようにしました。この2人の連携プレーで事なきを得ました。

「古江」でベビーカーとお母さんが下車しました。同じように車掌さんが介助し、お母さんは「ありがとうございます」と一言。間もなく発車しましたが、「己斐」を通過したときよりもいっそう和やかな空気感が立ち込めているように感じました。「西観音町」から「古江」まで、まるで映画の1シーンのようでした。日本人、捨てたもんじやない。それぞれの優しさ温かさ、正しく生きる姿。誰が讚える訳ではないのですが、その姿をお天道様はちゃんと見ていましたよ。

「修大協創中高前」で下車。足取り軽く学校へ。いつかこの話を生徒に話したいと思いながら。